

NGPの高品質化へ向けた取り組み

低クレーム発生率表彰において、優秀発送点数部門は(株)福山セコが4年連続で最優秀賞に輝く！ 堅実発送点数部門は(有)オートパーツ新居浜が受賞

NGPでは、商品品質に対する意識向上を目的として、年間クレーム発生率が低い支部及び組合員に対する表彰制度を設けています。NGPは、お客様に常により良い高品質なリユース部品を供給し続けていくため、今後も様々な取り組みを推進してまいります。

低クレーム発生率表彰
 優秀発送点数部門
 最優秀賞

株式会社福山セコ

(広島県)

クレーム発生率

0.11%

第21回 通常総会



(株)福山セコ・
 藤原庸正社長 受賞コメント

このたび優秀発送点数部門で最優秀賞を賜り、4年連続で表彰いただきましたことに、心より感謝申し上げます。毎年安定して低いクレーム発生率を維持できているのは、現場の作業者が一つひとつの工程に注意を払って取り組んでくれているからこそであり、その積み重ねが今回の評価につながったと感じています。

当社では、部品を取り外した直後の確認を特に重要視しています。向きや傷の有無をその場でしっかり確かめ、種類ごとに整理された棚へ

確実に保管することで、後の取り違いや誤登録を防いでいます。また、ミスに気づいたときは即座に共有し、翌日には改善策を現場に反映できる体制を整えています。こうした基本作業の徹底が、安定した品質につながっています。

今回の受賞は、当社だけでなく、日々取引をいただく整備・钣金事業者の皆様、NGP加盟店の皆様の支えがあって成り得たものです。いただいた信頼にふさわしい品質をご提供できるよう、5年連続の受賞を目指してこれからも改善を重ねてまいります。

低クレーム発生率表彰
 堅実発送点数部門
 最優秀賞

**有限会社
 オートパーツ
 新居浜**

(愛媛県)

クレーム発生率

0.17%



(有)オートパーツ新居浜・
 中原将貴社長 受賞コメント

このたびは堅実発送点数部門で最優秀賞をいただき、心より感謝申し上げます。当社は年初に「車を通じて『たいせつ』を追求する」という企業理念を掲げ、部品だけでなく、日々使う道具、お客様、仲間、そして地域社会に至るまで、関わるすべてを丁寧に扱うことを社員全員で意識してまいりました。

販売点数が多くない分、品質で評価していただけの企業でありたいという思いが強く、昨年優秀賞を受賞したことも後押しとなり、「今年こそは1位を目指そう」と社内でも自然と声が高まるようになりました。昨年はベテラン社員

が周囲のミスをカバーして乗り切った側面もあったため、今年はベテラン任せにせず、全員が自覚を持って品質に向き合うことを目標に掲げました。

そのため、作業の責任の所在を明確にし、社員同士が遠慮し合うことなく、気づいた点は率直に指摘し合う雰囲気づくりを進めました。「同じミスを繰り返さない」ことを社員共通のルールとし、理解できるまで何度も話し合いながら、全員が品質の担い手になる体制を整えてきました。

こうした取り組みの積み重ねが、今回の結果につながったと感じています。今後もお客様に安心してご利用いただける部品をお届けできるよう、引き続き全員で取り組んでまいります。

登録車も軽自動車も前年を上回る 認証不正による生産停止の反動増が影響か

日本自動車販売協会連合会と全国軽自動車連合会の発表によると、2025年の年間新車販売台数は、4,565,777台で前年と比べて3.3%の増加となり、2年ぶりに昨年実績を上回りました（グラフ1）。

そのうち登録車の販売台数は、2,898,417台で同1.2%の増加でした。また、車種別の販売台数（表1）では、普通乗用車が昨年を3.2%下回り、普通貨物車が3.8%下回り、バスも1.9%下回ったものの、他の車種はすべて前年を上回りました。

この数字は、市場全体が活況だったからというよりも、2023年末から2024年中ごろにかけて、ダイハツなどの一部メーカーによる認証不正が発覚し、車両の生産が一時停止されていたものが、随時再開されたことによる反動増が響いたものと考えられます。結果として、ダイハツ単体の年間販売台数は前年比46.2%増と驚異的な伸びを記録し、販売台数を押し上げました。

また、2024年まで続いていた部品供給

不足や物流の混乱が一定の落ち着きを見せ、バックオーダーの解消が進んだこともプラスに働いています。

通称名別販売台数ランキング（表2）では、1位はホンダ・N-BOX（20万1,354台）で4年連続首位、2位はトヨタ・ヤリス（16万6,533台）で順位を1つ上げました。3位はスズキ・スペーシア（16万5,589台）で同じく順位が1つ上昇。4位はトヨタ・カローラ（13万8,829台）となりました。

数字の面では販売台数はプラスになったものの、コロナ禍前の水準（年間500万台以上）には依然として届いていません。日産（前年比15.2%減）やホンダ（同7.3%減）のように前年を割り込んだメーカーもあり、物価高による買い控えや、軽自動車の価格上昇が市場全体の本格的な拡大を阻んでいる状況にあります。

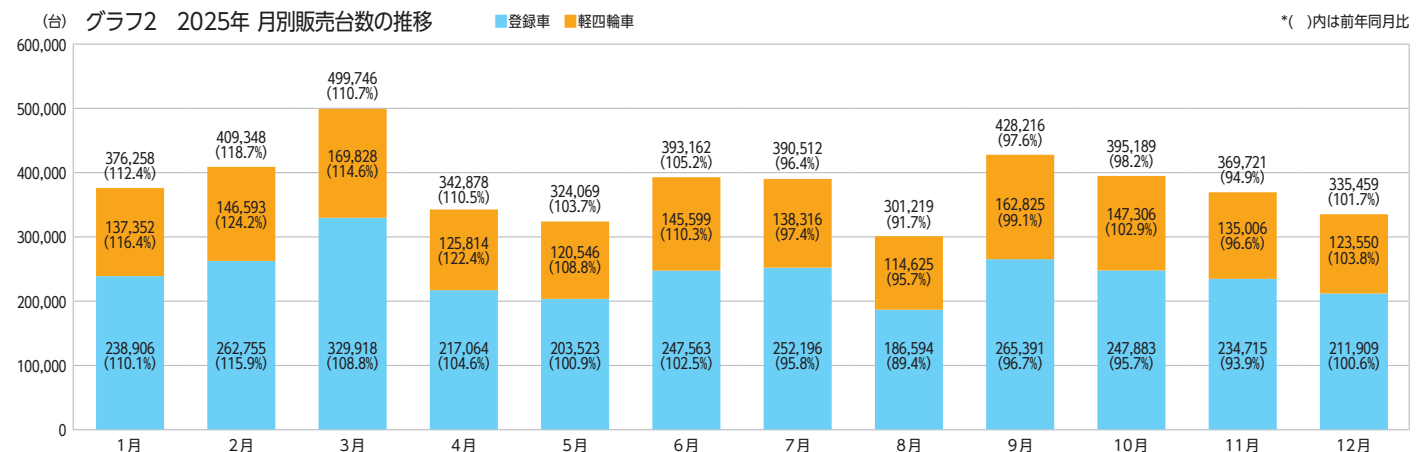
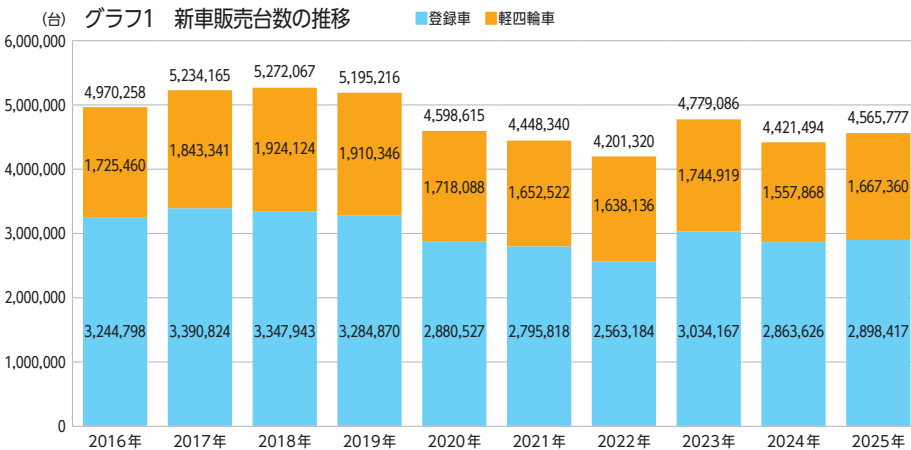
多少お金を出してでも「欲しい」と思わせる、魅力的な商品力の再構築が、今後の販売台数を分ける鍵となりそうです。

表1 2025年 年間車種別販売台数

	販売台数 (台)	前年対比 (%)
普通乗用車	1,700,143	96.8
小型乗用車	833,380	108.6
乗用車小計	2,533,523	100.4
普通貨物車	141,082	96.2
小型貨物車	213,906	116.4
バス	9,906	98.1
登録車合計	2,898,417	101.2
軽四輪乗用車	1,302,857	108.4
軽四輪貨物車小計	364,503	102.5
軽四輪車合計	1,667,360	107.0
総計	4,565,777	103.3

表2 2025年
通称名別 年間新車販売台数ランキング

順位	通称名	ブランド名	台数 (台)	前年比 (%)
1	N-BOX	ホンダ	201,354	97.6
2	ヤリス	トヨタ	166,533	100.2
3	スペーシア	スズキ	165,589	99.9
4	カローラ	トヨタ	138,829	83.2
5	タント	ダイハツ	124,619	132.9
6	ムーヴ	ダイハツ	122,349	291.3
7	シエンタ	トヨタ	106,558	95.9
8	ライズ	トヨタ	100,851	196.9
9	ルーミー	トヨタ	95,221	140.7
10	フリード	ホンダ	90,437	105.9
11	ハスラー	スズキ	87,972	94.8
12	アルファード	トヨタ	86,959	109.6
13	ノア	トヨタ	80,065	113.4
14	ヴォクシー	トヨタ	78,760	111.5
15	ノート	日産	78,123	76.8
16	ワゴンR	スズキ	72,520	91.0
17	ルークス	日産	71,498	101.1
18	セレナ	日産	71,465	88.3
19	アクア	トヨタ	68,499	106.7
20	ヴェゼル	ホンダ	67,239	89.1



洗練を極めた 多種多様なカスタムカーが 会場を盛り上げる



カスタムカー及び関連製品の展示会

「TOKYO AUTO SALON 2026」が1月9～11日の3日間、幕張メッセ（千葉県千葉市）で開催されました。

国産カーメーカーや輸入車インポーター、タイヤメーカー、アフターパーツメーカー、カスタムショップなど389社が出展した会場内には、カスタムモデル、モータースポーツ競技車両など856台の車両が展示されました。

カーメーカーのブースでは、レーシング仕様だけでなく、オフロード仕様など多種多様なカスタムカーが展示され、注目を集めました。

デモ走行やアーティストたちによるステージイベントなど多彩な催しが用意された会場内には家族連れの姿も多く見られ、3日間合計で272,383人の来場者が訪れました。



スズキ

ENEOS スーパー耐久シリーズ2025のST-4クラス参戦で世間にアツといわれたAutoLaboのスイフトスポーツがスズキブースに登場。苦しみながらも戦い抜いたスイスポに感動の嵐！



スバル

スバルとSTIが今季のモータースポーツ参戦体制を発表するとともに、WRXSTI Sport#を初公開した。現行WRXの日本仕様として初の6速MT搭載車。今春に台数限定で発売を予定



トヨタGAZOO Racing

TOYOTA 2000GTとLexus LFAを追い抜いていく映像が鮮烈に脳裏に焼き付くGRのCM。それら名車を追い抜くGRの新フラッグシップモデルGR GTがオートサロンに降臨！



日産

「マッチのマーチ」で名をはせた初代マーチ。近藤真彦氏が2024年に購入した初代マーチのAT車をMTにコンバージョンしたのが、日産自動車大学校である。約8ヵ月間かけて完成した極上の1台



ホンダ

ひと際異彩を放つ、オレンジボデーのパスポートは日本未発売のSUV。そのトレイルスポーツ・グレードはHRCによるフィードバックで開発するオフロード向けの設定で、国内導入も検討中



マツダ

マツダは昨年9月に北海道で開催されたクロスカントリーラリーシリーズ「XCRスプリントカップ北海道」第6戦でクラス2位という成績を収めたMAGIC TY MAZDA CX-60を展示



三菱

大人気のデリカミニが4台展示される中、最も注目を集めたのが、デリカミニ ULTIMATE GEAR。エンボス調のラプター塗装に、ごついフロントグリルガードを採用。今風に言うなら「ビジュアルイじゃん」

NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴うCO₂削減量

令和7年12月：

1,793t

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）と、リビルト部品の3部品を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和7年12月：

0.2t

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。



NGP協同組合は、交通遺児育英会（石橋健一会長）に寄付金を贈呈しました。

NGPは、リユース部品に品質保証の証としてギャランティシールを貼り付けるとともに、同部品の販売で得た売り上げの一部を交通遺児育英会などに寄付しています。これは、使用済み自動車を取り扱う事業者として、交通事故で親を亡くした遺児らの教育や生活を支援したいとの思いから、1991年から毎年続けて

きた活動です。

小林信夫理事長の代理として谷洋紀事務局長が交通遺児育英会を訪問し、石橋会長から感謝状を受け取りました。石橋会長からは「毎年のご支援に感謝しております。当会では交通遺児らの負担を少しでも減らすため、給付型奨学金や就学支援金、進学受験費用補助などの支援をしており、今年度からは就職に役立つ検定や資格試験費用の全額補助を開始しま

した。こうした取り組みが進められるのも、皆様からの寄付のおかげです」と、感謝の言葉をいただきました。



交通遺児育英会・石橋健一会長(左)とNGP・谷洋紀事務局長

NGP理事・役員、明治神宮を参拝 業界全体のさらなる発展を祈願

小林信夫理事長をはじめとしたNGP協同組合理事及び(株)NGP役員は1月22日、明治神宮（東京都渋谷区）に参拝し、毎年恒例の新年祈願を行いました。

小林理事長は参拝後、「カーボンニュートラルの達成に向けて、資源を循環させるサーキュラーエコノミーの実現が社会全体で求められています。リユース部品は、新品部品の製造や資源採掘に伴うCO₂排出を無くし、資源の有効活用にも直結します。環境への配慮を、現実的かつ継続可能な形で実行できる点に、リユース部品の大きな価値があります。2026年もNGPは、高品質なリユース部品の安定供給を通じて、整備・修理工場の皆様の事業の発展をサポートするとともに、環境負荷の低減と持続可能な社会の実現に貢献してまいります」と、新年の抱負を話しています。



参拝後の小林信夫理事長（前列左から2人目）とNGP理事・役員

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
東海	有限会社富士クラッチ工業所	移転	〒510-0001 三重県四日市市八田三丁目7-9 TEL 059-364-5252 FAX 059-364-3033	2026年1月19日
九州	株式会社オートパーツ伊地知	会社代表	代表取締役 伊地知 龍二	2026年1月23日
九州	株式会社オートパーツ伊地知 熊本営業所	ビル名	〒860-0812 熊本県熊本市中央区南熊本4丁目6番9号 TCFビル4-D	2026年1月15日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>